

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立松伏高等学校)

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
--------	---

重点目標	1 授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。 3 生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活性化させる。 4 規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図るとともに、進路希望を実現させるため学力向上を一層推進する必要がある。 保護者と連携しながら家庭学習の習慣を確立させる必要がある。 	授業改善と組織的な学習指導、家庭学習の定着化により学力を向上させる。	①教員相互の授業観察や研究授業を充実させ、指導・評価の工夫改善に向け研修を行う。 ②授業と宿題をリンクさせるなどで家庭学習を習慣化させる。 ③模擬試験の計画的な実施と結果分析を行い、学力定着指導に反映させる。 ④読書活動と図書館の有効な活用を推進する。 ⑤懇談会や三者面談を活用して家庭学習推進の保護者の協力を得る。	①教員相互の授業観察や研究授業が活発に行われたか。 ②定期考査の結果が向上したか。 ③模擬試験の結果が前年度より向上したか。 ④本の貸出し数が増加し図書館の有効活用が図られたか。 ⑤家庭学習時間や授業以外の学習時間が確保されたか。	①教員相互の授業観察は少ないのが現状。 ①評価に係る研修会を実施した。 ①アンケートでわかりやすい授業と答えた生徒83% ②学力向上に学校全体で取り組む気運が高まっている。2学期までの成績優良者数 H28-145名→H29-169名。 ③模擬試験分析 1年→2年は下位層が減少。2年→3年は下位層が増加。 ④本の貸出数-H28・1951冊→H29・2336冊。授業での図書館利用-H28・4h→H29・20h ⑤97%の生徒が平日の家庭学習1時間未満。考査前でも4割が学習時間1時間未満。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上に向けた相互の授業観察は今後、組織的な取組が必要である。 学年、教科の優れた取組を成果につなげる組織的なチームが必要である。 家庭学習時間の少なさは大きな問題。個人の優れた取組を教科・学年・学校(組織)の取組として行っていく。
		教育課程の改善を行う。	①教育課程委員会の定期的な開催。 ②他校の教育課程を研究する。	①②教育課程が改善されたか。	①②大学進学他、多様な進路に対応できる教育課程の改訂が順調に進んでいる。	A	
2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導は3年間を見通して計画的に行われているが、それぞれの希望進路に応じた指導、特に進学希望者に対する指導を一層充実させる必要がある。 資格取得を一層意欲的に行わせることが必要である。 	系統のかつ組織的なキャリア教育を推進すると共に、進路実現に必要な学力を向上させる。	①系統的・組織的な進路指導を継続して行う。 ②外部講師を積極的に活用する。 ③各種進路プログラムの効率的な運用とマニュアル化を図る。 ④進路指導部と教科が連携して、進学補習体制を構築する。	①②生徒の進路希望が実現できたか。 ③進路プログラムの効率的な運営とマニュアル化が図れたか。 ④一般入試による大学進学者が増加したか。	①②進路行事では外部講師を積極的に活用した。進学希望者も含め進路未決定者0に向けて進んでいる。 ③進路行事のマニュアル化が進んでいる。 ④進学補習開講数は1講座増えたが、実施数は少なかった。	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のワンランクアップを目指すべく、進学補習・検定試験の補習を組織的に拡充していく。 模擬試験の結果分析を行い、学力向上に生かしていく。
		必要な資格や高度な資格取得を奨励する。	①就職希望者向けの補習やがイタズを充実させる。 ②資格取得目標を明確化する。 ③予・復習の習慣化や検定試験合格のために、課題を与え模擬試験を積極的に実施する。	①就職決定率100%が継続されたか。 ②③資格取得者の割合、難関資格取得が増加したか。	①就職決定率は、9年連続100%になる見込み。企業への電話・訪問合計80社。 ②③検定試験の補習を積極的に行った。簿記検定2級合格率-H28・40%→H29・47% 知事表彰受賞者 H28・24人→H29・25人	A	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化と継続のため、進路企画のマニュアル化をより推進していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通じたリーダーの育成と「主体的に自ら考え行動する力」を養う必要がある。 部活動は活発になってきている。部活動実績の向上と活性化を一層推進する必要がある。 	特別活動の充実と音楽科の活動をより一層推進する。	①行事や生徒会・各委員会では生徒が中心に主体的に活動できるように支援していく。 ②音楽科の定期演奏会の内容の充実を図るとともに、音楽科行事の積極的な広報を工夫する。	①行事や委員会は生徒中心に活発に活動できたか。 ②演奏会等での生徒の達成感、満足度が図れたか。 ②音楽科行事への参加者が増えたか。	①目安箱の設置、松高 Tims 号外の増加、松高スーパーレベネーションへの出演生徒の増加等、生徒が主体的に活動する場面が増えた。 ②新聞や県政ニュースを活用し、音楽科や吹奏楽部の演奏会等を積極的に広報した。	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通じて、リーダーの育成と「生徒自ら考え・行動する力」を養っていく。
		各部の活動の充実と実績の向上を図る。	①指導方法の工夫や他校との連携を積極的に行う。 ②実績向上や部員数が増えた部に予算補助を行い、活動を支援する。	①②部活動加入率が増加したか。 ①②大会の上位進出等、部活動実績が向上したか。	①②部活動加入率→85%(-3P)・運動部は31% ①②合唱部・吹奏楽部、関東大会出場。バレー部・テニス部他、県大会出場の部活も増加。 ②部室の配置見直しを行い、生徒がより活動しやすい環境を整えた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動のレベルアップと、部活動を通じた豊かな人間育成を図っていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携はよく図られている。地域連携や特色ある教育活動を積極的にアピールし、松伏高校の素晴らしさや理解を深めてもらう必要がある。 自律や規律を重んじる態度を身につけさせるとともに、交通安全指導を一層充実させる必要がある。 	松伏町関係機関や地域・保護者との連携を一層強化し、高校の魅力を積極的に発信することで生徒募集につなげる。	①町役場やロータリークラブとの連携事業を充実させる。 ②ボランティア活動や授業・行事の公開など、学校の教育活動を積極的に地域・保護者に広報する。 ③生徒会交流や依頼演奏の充実を図り地域や中学との連携を強化する。	①ボランティア活動や地域交流が一層充実したか。 ②地域・保護者の学校行事への参加数が増加したか。 ②③学校説明会の参加者数・入試倍率が上昇したか。	①学習ボランティア、ミニ松伏、地域清掃、エコキャップ回収等、地域貢献を十分に果たした。 ②文化祭の来場者数-1408人(昨年1426人) ②HPの行事・部活動の更新回数159回。 ③合唱部・吹奏楽部の外部依頼演奏16回。教育活動を外部へ積極的に発信した。 ③学校説明参加者 H28・712人→H29・561人)	A	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の工夫を進め、特色ある教育活動を積極的に地域や校外に発信し、安定した生徒募集につなげていく。
		挨拶・遅刻・服装等規範意識の醸成と、生徒の命を守る交通安全指導を充実させる。	①挨拶・身だしなみ等は教職員から積極的に声掛けしていく。 ②生徒指導の予防的措置を念頭に、注意・喚起をこまめに行う。 ③PTAとも連携して、遅刻指導・交通安全指導を組織的に行う。 ④校門立哨等、生活委員会の活動の場を広げる。	①④挨拶・身だしなみの状況がより向上したか。 ②生徒指導件数が減少したか。 ③④遅刻者数が減少したか。 ③④交通事故件数が減少したか。	①全体では挨拶する生徒が増加傾向。服装等の乱れが一部生徒に見られる。 ②生徒指導件数は昨年より2件増加。 ③遅刻指導対象生徒数が昨年より増加。 ③交通事故は13件(H28・8件)。昇降口の掲示等で交通ルール遵守の啓発活動を行った。 ④登校指導・昼の巡回指導・下校指導を組織的に行い、生徒会生徒による朝の清掃活動等も継続している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 服装の乱れや遅刻に対しては、全職員の共通理解に基づく組織的・統一的な指導をより徹底して行っていく。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学校関係者評価
実施日 平成30年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が「勉強はおもしろい・役立つ」と思わなければ、いくら勉強せよと言っても生徒は動かない。そのような仕組みや授業改善を更に進めてほしい。 中学、高校の教員が互いの授業を見学し合う取組等行うと、授業改善のヒントが得られるのではないかと。 主体性は始めから備わっていない。行動させる環境づくり、勉強する雰囲気づくりが大切。土日課題、試験前補習、進学補習、自習室確保等、工夫してほしい。 図書館の貸出数が増えたのは良い。会社でも本を読むよう言っている。 学習時間の向上には家庭の力も大きい。学校に任せきりではいけない。 自分の夢に向かって今、何をすべきかを考え、行動させることが大切である。 社会の変化が激しい時代だからこそ、学校と家庭と企業が協力・連携して人づくりを行っていく必要がある。 「松伏の子は会社に入って辞めない、頑張る」と言われるような特色や人材の育成を。企業はこれを見ている。 4年制大学への進学者が増加。入れる大学から入りたい大学へのワンランクアップを目指す組織的な取組を行ってほしい。 進路に関して生徒の「気づき」は、事が起こってからでは遅い。早い段階からの進路意識の醸成が必要である。 社会では自分で考え行動することが求められる。その意味でも生徒主体に行事等が行われているのは評価できる。 体育祭、文化祭、音楽科や部活動の定期演奏会等では生徒は一生懸命で皆輝いていた。この良さをいろいろな所で生かしてほしい。 これからは行動M、実践V、コミュニケーションPが必要で、「あなたは何かができるか」が求められる。学力+部活動+特別活動で全人的な力をつけさせてほしい。 依頼演奏、ボランティア等これだけ地域に貢献している学校はない。地域の小・中学生も松高生から良い影響を受けている。 学習ボランティアは本当に良かった。あなたたちこそ夢をかなえてほしい。今後も中高連携を積極的に行っていきたい。 中学生が減少する中「松高に入るとこんないいことがある」、「松高は音楽」等、松高の色を出していく必要がある。 中学生のニーズに応えることができる学校づくりが今後より必要になる。 学習以外の面でも、松高の良い所を伸ばし、それをPRしていくとよい。生徒もそれを意識し成長していく。 中学の正門で松高生が朝、挨拶をしてくれる。素直な良い生徒が育っている。